2025年度基調報告

認定特定非営利活動法人ファミリーハウスは 1991 年創立以来 34 年が経過しました。この間活動を支えてくださった会員の皆様をはじめ、多くの支援者のご理解、ご協力に心より御礼申し上げます。

ファミリーハウスは 2024 年度、8 施設 17 室を運営し、346 家族、延べ 5,807 人の方々にご利用いただきました。ハウスを支えるボランティア、スタッフの皆様のご尽力に感謝申し上げます。

2024 年度の活動についてご報告申し上げます。

第一に、ハウス運営事業についてです。今年も感染対策について慎重なハウス運営を行ってまいりました。スタッフ、ボランティアの皆さんの意識の高さと工夫により滞りなくハウスを運営することができました。

また、国立がん研究センター中央病院、聖路加国際病院をフォローしている「かちどき橋のおうち」3 室が 2025 年 3 月で建物取り壊しのため退去。新たに近隣にて 2 室を移転開設いたしました。移転開設に際して国立がん研究センターの医師、看護師、社会福祉士の方に見学をいただき、利用者さんへの対応について助言等いただきました。ふたつの建物のオーナーである乾汽船株式会社さまには 2014 年以來ご支援をいただき、こうした形でお支えいただきましたこと心より感謝申し上げます。

第二に、第 25 回 JHHH ネットワーク会議では、会場・オンライン合わせて 107 名が参加。こども家庭庁成育局成育環境課こどもホスピス専門官支援局総務課自殺対策室課長補佐、内川麻実子氏による講演「こどもまんなか社会の未来に向けて～こどもホスピスの取り組みをふまえて～」のあと、多岐にわたる関係者が分科会で忌憚のない意見交換を行いました。昨年、国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科診療部長の余谷暢之先生の小児緩和ケアについてのご講演と合わせて、私たちがこれから社会とどう協働して子どもたちの「生きる」を支え活動していくのかを問い直す機会となりました。

第三に 2010 年より病院近くの「理想の家」建設に向けて運動を続けてまいりましたが、2024 年 4 月東京都都市整備局の HP にて築地市場跡地の開発事業予定者が決定し、その計画の中にファミリーハウスが組み込まれていることが発表されました。掲載された「築地まちづくり審査結果」には、「こどもの目線に立ったまちづくりとしての、小児がん患者が医療機関の近くで家族と生活することができるファミリーハウスの整備は、国立がん研究センターとの連携を有効に生かした提案であり、地域や社会への貢献が期待されるものとして評価された。」とあり、今までの活動が評価されたものと感じております。本年 3 月末に東京都と事業者の基本協定が締結され、「理想の家」が実現に向け一歩進みました。

その他、東京マラソン、チャリティコンサート、企業への出張ボランティアなど数多くの皆様にご支援いただき様々な活動をすることができました。心より感謝申し上げます。

今年度も皆様のご協力ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

理事長 江口 八千代

2024年度事業報告

1. ハウス運営事業

(1) ハウス運営事業

2024年度は、8施設17部屋で運営を行った。利用実績は、346家族、5,807人、延べ3,855日。

前年度(337家族、5,890人、延べ3,810日)に引続き、感染予防を徹底しつつ利用家族の受け入れを行い、利用家族数・利用人数・日数とも増加。今年度もボランティア・スタッフの安全確保と利用者の協力を得て感染防止策を重ね、ハウス運営を維持することができた。

本法人活動開始以来の利用実績累計は、20,361家族、延べ187,592日。

① 『かちどき橋のおうち』(中央区)移転

2014年4月に開設した「かちどき橋のおうち」(中央区・3室)は、建て替えによる解体のため2025年3月に退去した。乾汽船株式会社と個人の篤志家の協力を頂き、新たに近隣にて2025年4月「かちどき橋のおうち」(中央区・2室)を開設。多くのボランティアの協力を得て、感染症防止対策を取りながら短期間での移転開設準備を行うことができた。

(2)安全衛生について

① 寝具リネンのクリーニング

各ハウスの寝具リネン(布団カバー・シーツ・枕カバー)を原則月2回、業者とリネンボランティアの協力を得て交換。常時、清潔なリネンを提供することが出来た。

② リース寝具の提供

本年度も引き続き、良質なリース寝具を提供することが出来た。寝具一式(枕、敷布団、ベッドパット、厚・薄掛布団)は年4回洗浄されたものと定期的に交換した。また、感染症専門看護師のアドバイスで、利用者がチェックアウト後にはベッドパッドを洗濯し、次の新しい利用者を受け入れるようにした。交換時には定期・企業ボランティアの協力を得て梱包や点検を行い、利用者への良好な衛生環境を維持することが出来た。

③ 洗濯機槽とエアコンフィルター清掃

毎月1回、各ハウス洗濯機槽、エアコンフィルターを清掃し、治療中の患児も安心して利用できる衛生的な環境維持に努めた。ハウスボランティアの地道な活動に支えられて、衛生を保つことが出来た。

④ ハウスの大掃除

日常の清掃は、利用者と定期のハウスボランティア・スタッフで行い、衛生確保に努めている。定期ボランティアは長く継続して活動しているボランティアに支えられている。今後は新規のボランティアを増やしていくことが課題である。企業ボランティアについては、引き続き感染対策の点から1回の活動での参加人数は少人数を維持しつつ、活動回数を増やしハウスの安全衛生の維持に努めた。2024年度は、延べ70回の大掃除を行い、合計542名にご協力いただいた。

企業ボランティアがハウスの活動に参加する際には、引き続き参加者の社員に感染症に関する質問用紙を提出いただき、これまでは活動前にハウスで一緒に見ていた活動紹介の動画は各自事前に視聴していただいた。活動中は常時換気、マスクの着用、手洗いの徹底、互いの距離を取るなど、感染対策を取って活動を実施した。

○カピバラの家(5/11,7/13,9/14,10/23,11/9)

○ひつじさんのおうち(4/23,6/18,7/2,7/16,7/30,8/27,9/10(2回),9/24,10/8(2回),10/22(2回),11/5,11/19,12/17,1/14,2/25,3/11,3/25)

○ひまわりのおうち(11/21,12/19)

○うさぎさんのおうち、かちどき橋のおうち、おさかなのおうち(5/8,7/3,7/17,7/24,8/21,9/11,9/25,10/9(2回),10/23,10/30,11/6,11/13(2回),11/27(2回),12/4,12/11,12/25,1/22,1/29,2/26,2/28(3回),3/1(3回),3/2(2回),3/3,3/4,3/6(2回),3/7(2回),3/8(2回),3/9,3/12(2回),3/26)

⑤ 専門業者によるハウスクリーニング

今年度は専門業者によるハウスクリーニングを7施設で実施した。エアコン、洗濯機、浴室など専門技術の必要な箇所及びベランダなど日常の清掃では出来ない箇所を中心に清掃を行った。大勢のボランティアが集まったの大掃除は感染予防の観点から自粛せざるを得ない状況が続いたため、専門的な清掃による衛生的な環境維持は利用者の大きな安心に繋がった。

(3) ハウス設備の充実

ファミリーハウスは、安いホテルではなく、利用者にとっての「病院近くのもうひとつのわが家」を運営することをミッションとしている。特に近年は、重篤な子どもたちの利用も多く、ハウスが家族とのかけがえのない時間を過ごす場所となっている。そのため、ハウスの安全や衛生をはじめ、各ご家族の状況とそれぞれのニーズに添った支援を募り、設備充実に努めた。

① 本・おもちゃなど

個人や企業・団体から、絵本・おもちゃなど多くの寄贈があった。企業から子どもたちに人気のキャラクターグッズやベッドの上でも楽しむことができる安全なおもちゃなどをご寄付いただき、患児をはじめ、きょうだい児、ご家族に大変喜ばれた。届いた本やおもちゃは、ボランティアで適宜除菌を行い清潔な状態で利用していただいたり、誕生日やクリスマスなどのイベントの際にラッピングしプレゼントとしてお渡しした。

② 食品・生活用品など

企業や会報の呼びかけに応えた個人の方から、食品や日用品の寄付が多数あった。物価高騰によりこれまで以上に生活費を抑えようとする利用者が多い中で、食品、生活用品のご寄付は経済的な負担の軽減に留まらず、安全で安心なハウスでの生活に繋がった。それらの物品寄付は、ボランティアの協力を得て各ハウスに配備した。

③ 利用者への季節の贈り物

企業、個人のボランティアの協力を得て、母の日やクリスマスなどに季節の品を贈ることができた。また、クリスマス時期は、子どもたちが大好きな本やおもちゃ、ひざかけや靴下、クリスマスのお菓子などが個人・企業・団体から多く届き、ボランティアの協力を得てラッピングを行った。患児の年齢や性別、好みによりプレゼントを仕分け、好きなものを自由に選べるよう準備した。

④ 電化製品、介護用品など

個人や企業より、家電製品・介護用品等の備品の寄付があり、ハウスの環境をよりよくすることができた。

⑤ 防災用品

災害時に必要な防災用品や非常用食品を滞在想定人数にあわせてハウスに常備している。備蓄食や水は「ローリングストック」という普段消費する食品も備蓄食としてカウントする方式で管理。この方式は鮮度を保ちながら日常に近い食生活を送ることができ、定期的に在庫を確認することで消費期限切れを防ぐことができた。

(4) ボランティア関係報告

① ボランティア説明会

今年度のボランティア説明会は全てオンラインで実施し延べ23回のボランティア説明会を開催した。1年間の新規ボランティア登録者数は20名。ボランティア説明会では、まずファミリーハウスの活動を理解いただくこと、ボランティア希望者と運営側のニーズがマッチングすることの二点に重点を置いている。2025年3月現在、登録ボランティアは260名となった。

② ハウスを支えるボランティア

ハウスで活動できる定期のボランティア、企業のワンデイボランティア共にコロナ前より減少しているが、運

営する全てのハウスにおいて、ボランティアチームが定期的に活動することが出来た。ハウスキーピング(164回、延べ705名)、リネン交換(107回、延べ131名)、巡回活動(24回、24名)を定期的に実施した。

【ルーティン】※ハウスキーピング、リネン交換、巡回活動の合計

ハウス名	延べ活動回数	延べ活動人数
ひつじさんのおうち	73	236
ちいさいおうち	58	58
カピバラの家	40	65
ひまわりのおうち	34	76
うさぎさん・かちどき橋・おさかなのおうち	90	425
合計	295回	860人

企業社員ボランティアとの協働では、合計94回、1,271名が活動に参加した。うちハウスでの活動は、69回、255名。オンラインで企業社員と繋ぎ、活動紹介やプログラムを提供したオンライン・ボランティアは、12回、延べ515名が参加。ハウスでの活動が難しい企業の社員の方々にも活動を紹介し、協力いただく機会を得た。また、ボランティアやスタッフが企業などに出向いて行う出張ボランティアは、13回、延べ501名が参加した。

【スポット】

活動場所	延べ活動回数	延べ活動人数
ハウスでの活動	70	260
オンライン・ボランティア	12	515
出張ボランティア	13	501

- ③ イベントを支えるボランティア活動
東京マラソン 2025 では、2月27日(木)～3月1日(土)東京マラソン EXPO のチャリティブース運営、及び3月2日(日)東京マラソン 2025 当日の事務局前の沿道応援や、フィニッシュ後のラウンジブースに多数のボランティアの協力をいただいた。
- ④ 自宅で作る手仕事ボランティア活動
ハウスで必要なぞうきん、使い捨て布、グリーティングカードなどを自宅で作るボランティアで協力いただいた。企業では、オフィスでの活動に参加する社員だけでなく、オンラインで繋ぎ社員が自宅からでも協力できるものをと社内で広く呼びかけ、協力くださった所も複数あった。
- ⑤ IT 関係ボランティア
各ハウスに設置されているパソコン・Wi-Fi 等のメンテナンス、寄贈のタブレットのセットアップ、HP 更新等を PC ボランティアの協力により行っているが、感染予防が必要な状況が続く中では、ハウスで活動するボランティア、企業の IT 部の社員ボランティア等が代わりに最低限の対応を行った。PC・HP ボランティアのメンバーは、10名。
- ⑥ 事務関係ボランティア
経理業務、会員管理、利用率の集計、お礼状の発送、ファミリーハウス通信の編集・発送、アニュアルレポートの編集、ウェブサイトや SNS の更新、各種デザイン関係の支援など、ボランティアの協力を得て行うことができた。感染予防対策のため事務所での活動人数と時間を制限し、可能な限り在宅で活動できる工夫を行った。
- ⑦ ハウスの定期的な物品運搬ボランティア
企業又は個人からいただいた品物(生活用品、食料品等)をボランティアの協力を得ながら定期活動やハウス訪問時に届けた。さらに、1ヶ月に1~2回、車での運搬ボランティアの協力を得て、寄付された物品がす

ぐに利用者のもとへ届くようにハウスと事務局間において定期的に物品運搬を行っている。各ハウスでは毎月管理表で在庫をチェックすることで、各ハウスのニーズに添った物品を届けることができた。

(5) 内部研修及びミーティング

- ① ハウスボランティアミーティング
引き続き感染対策の観点から、各ハウスともボランティアが集まったの定期的な活動を縮小。感染予防対策を徹底し、ボランティアミーティングや少人数での活動後の振り返り、意見交換は遠隔(電話、Line、Zoom等)で行った。
- ② プロジェクト進捗ミーティング
オンライン形式で、毎週月曜日にプロジェクトの進捗ミーティングを行った。新たなプロジェクトの検討や、HP、会員管理について情報共有をしながらスタッフ間の連携を行った。
- ③ ケースカンファレンス
オンライン形式で、毎週金曜日に利用者についてのケースカンファレンスを行った。
受付担当スタッフ、相談員(看護師)、ハウス担当スタッフを中心に、安全衛生、情報共有、検討事項の相談などを行った。

(6) 企業研修、学生・他団体の研修受け入れ

- ① 2024年4月5日(金)オリンパス株式会社新入社員研修
- ② 2024年4月11日(木)あすなろの家 ハウスの見学受け入れ
- ③ 2024年4月15日(月)東京慈恵会医科大学看護学部小児看護学持論 江口八千代理事長講演
- ④ 2024年4月24日(水)成育こどもシンクタンクセミナー「こども家庭庁創設で母子保健はどう変わるか—こどもまんなか社会とは—」にて発表
- ⑤ 2024年5月9日(木)日本光電工業株式会社新入社員研修
- ⑥ 2024年5月15日(水)東京慈恵会医科大学 / 東京墨田看護専門学校実習
- ⑦ 2024年5月22日(水)東京墨田看護専門学校実習
- ⑧ 2024年5月29日(水)東京墨田看護専門学校実習
- ⑨ 2024年6月5日(水)東京墨田看護専門学校実習
- ⑩ 2024年6月19日(水)東京墨田看護専門学校実習
- ⑪ 2024年6月26日(水)東京墨田看護専門学校実習
- ⑫ 2024年7月3日(水)東京墨田看護専門学校実習
- ⑬ 2024年7月10日(水)東京墨田看護専門学校実習
- ⑭ 2024年7月17日(水)東京墨田看護専門学校実習
- ⑮ 2024年8月7日(水)うさぎさんのおうち見学受け入れ
- ⑯ 2024年9月26日(木)第一三共株式会社社内講演会登壇
- ⑰ 2024年10月2日(水)東京墨田看護専門学校実習
- ⑱ 2024年10月9日(水)東京慈恵会医科大学医学部看護学科実習
- ⑲ 2024年10月10日(木)東京慈恵会医科大学医学部看護学科実習(オンライン)
- ⑳ 2024年10月16日(水)東京墨田看護専門学校実習
- ㉑ 2024年10月23日(水)東京墨田看護専門学校実習
- ㉒ 2024年11月26日(火)うさぎさんのおうち見学受け入れ
- ㉓ 2024年12月27日(金)エイブル保証株式会社社内講演会登壇
- ㉔ 2025年1月14日(火)ひつじさんのおうち見学受け入れ
- ㉕ 2025年1月22日(水)うさぎさんのおうち見学受け入れ(こども家庭庁)
- ㉖ 2025年2月14日(金)うさぎさんのおうち見学受け入れ
- ㉗ 2025年2月21日(金)うさぎさんのおうち見学受け入れ(チャイルド・ケモ・ハウス)

2. 広報

(1)ファミリーハウス通信の発行

2024年度も毎号ごとに編集会議を行い、年4回の発行を行った。質の高い紙面作りを目指し、昨年に引き続きプロボノの協力を得て工夫と改善を行った。会報を通じ、活動の現状とハウスのニーズを伝えるとともに、寄付・ボランティアへの活動参加に繋がるような制作に努めた。また、正会員、後援会員、協力企業、関係団体、医療看護福祉系大学、専門職団体、医療機関、保健所等へ配布し、4回合計で7,049部発送した。(前年発送部数:7,089部)「通信」の編集・発送作業はボランティアの協力によって行われた。また、HPへの掲載も開始し、HPへ掲載した記事を見て物品寄付をくださる方の増加にも繋がった。

(2)ハウス見学受け入れ

今年度も感染予防の観点から各ハウスの見学受け入れは、慎重に設定した。利用者のいない期間に、人数、時間制限を設け、換気をしながら見学を受け入れた。

勝どきエリア(うさぎさんのおうち、かちどき橋のおうち)では最新のハウス例として、東京慈恵医科大学大学院及び医学部看護学科、東京墨田看護専門学校等からも実習を兼ねて見学を受け入れた。また、行政や、医療従事者、他団体などの見学者を受け入れた。病院から近いハウスを必要とする患児と家族の状況やハウスのニーズを伝えることができた。

(3)ファミそ作り

料理研究家脇雅世ご夫妻のご協力により、『ファミそ～ファミリーハウスのための味噌～』作りが11年目を迎えた。オリジナルラベルのデータ作成は、引き続きホスピタリティデザインを手がけるプロボノの寺澤知也氏にご協力いただいた。以前は、例年、熟成した味噌の容器詰めはボランティアを募り参加していたが、今年も感染予防から脇先生が引き受けてくださり、毎年楽しみにしている方々へお届けすることが出来た。

(4)ホームページ

2024年4月1日～2025年3月31日の期間のページビューは67,778件であった(なお、2023年度のページビューは52,964件)。ボランティア活動などの情報を都度情報発信した。

(5)学会・講演等

- ① 2024年10月5日(土)第24回中部小児がんトータルケア研究会 発表
- ② 2025年3月8日(土)小児がん交流フェスタ2025にて団体紹介

(6) イベント

① チャリティ・ジャズコンサート

2024年10月11日(金)、NPO グローヴィル主催で「Jazz Night in ひろしま チャリティー・ジャズ・コンサート with Alessio Menconi」が開催された。昨年に続き、ひろしま美術館内で開催されたコンサートで多数の聴衆がギター演奏を楽しみ、コンサートチケットの売上は全額ファミリーハウスに寄付された。

② 「タオルくまをつくろう」ワークショップ

2023年12月に続き、「うさぎさんのおうち」や「かちどき橋のおうち」がある中央区勝どきで2024年12月8日(日)にワークショップを2回開催した。『病気の子どもと家族のためのクリスマスプレゼント“タオルでくまをつくろう!”』と題して活動紹介、タオルくま作り、バザーを実施し、26名が参加した。地域住民にファミリーハウスを知っていただく機会となった。

③ 東京マラソン 2025 チャリティ

2025年3月2日(日)に開催された東京マラソン 2025では、ファミリーハウスを支援するチャリティランナー134名が出走した。2月27日(木)～3月1日(土)東京ビッグサイトでの東京マラソン EXPO2025に寄付先団体の一つとしてブース出展をし、来訪されたチャリティランナーの方にファミリーハウスオリジナルビブス等をお渡しして、感謝の意を伝えた。大会当日は事務局前の靖国通りにおいて企業ボランティア18名とともに沿道応援を行い、フィニッシュ後東京国際フォーラムのチャリティラウンジでチャリティランナーとの交流をした。

(7) SNS(X(旧 Twitter)、ピアッザアプリ)

当会で初めての SNS の活用として X(旧 Twitter)による情報発信を 2021 年 10 月 15 日に開始した。

2025 年 3 月 31 日現在のフォロワー数は 187 である。又、2023 年 10 月より地域コミュニティアプリ「ピアッザ」(中央区エリア版)での情報発信も行っている。

3. 援助及び支援活動

(1) 相談事業

① 受付・電話相談

電話の総数は、3,336 件。電話相談問合せは、254 件。

② 利用者面談

利用者面談件数は、1,262 件。看護師、ソーシャルワーカーなどの専門職による訪問、電話での面談を行った。

③ 病院との連携

利用者を受け入れる際に、必要に応じ病院との連携を行った。医師、病棟看護師、ソーシャルワーカーなどの医療従事者とともに利用者の安全な滞在を確保した。

(2) 援助支援活動

① 一般財団法人日本メイスン財団

一般財団法人日本メイスン財団の助成金により、滞在施設の衛生環境向上のためのリース布団提供事業を実施し、各ハウスで衛生的な寝具環境を維持することができた。

4. その他

(1) 全国ネットワークの取り組み

① 第 25 回 JHHH ネットワーク会議の開催

2025 年 2 月 8 日、国立がん研究センター研究棟にて、第 25 回 JHHH ネットワーク会議を開催し、会場・オンライン合わせて 107 名が参加した。こども家庭庁成育局成育環境課こどもホスピス専門官 支援局総務課自殺対策室課長補佐、内川麻実子氏による講演「こどもまんなか社会の未来に向けて～こどもホスピスの取り組みをふまえて～」のあと、全国のハウス運営団体及び多様なバックグラウンド参加者と、患者とその家族を支える活動をする参加者同士で意見交換する分科会を行った。

(2) 新ハウス開設プロジェクト(理想の家プロジェクト)

2024 年 4 月 19 日(金)、東京都都市整備局の WEB サイト上に「築地地区まちづくり事業審査結果」が掲載され、その中で「こどもの目線に立ったまちづくりとしての、小児がん患者が医療機関の近くで家族と生活することが

きるファミリーハウスの整備は、国立がん研究センターとの連携を有効に生かした提案であり、地域や社会への貢献が期待されるものとして評価された。」とあり、ファミリーハウスを整備することが明記された。病気の子どもと家族が抱える新しいニーズにも対応できる「新ハウス開設プロジェクト」(理想の家プロジェクト)として、定期的なプロジェクトミーティングや、東京都、厚生労働省、国立がん研究センター中央病院などの関係機関、専門家と情報交換・意見交換をするなど、築地市場跡地への新ハウス開設に向けて様々な活動に取り組んだ。

(3) 公益財団法人洲崎福祉財団の助成選考委員

公益財団法人洲崎福祉財団の一般助成、継続助成選考委員として、2024年4月24日(水)・10月23日(水)に理事長江口八千代が選考委員会に出席した。